

LEKI

取扱説明書

トレッキング／クロストレイル／トレイルランニング／ノルディックウォーキング



スピードロックシステム

マイクロシステム



スーパーロックシステム



Caravan

株式会社キャラバン

注意事項

【1】必ずバスケットを装着して使用する

シャフト破損、パーツ紛失の原因となります。

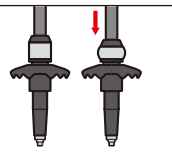
※アンチショックシステムを固定するピンはフレックスステップに打ち込まれています。バスケットを取り外したまま使用すると、ピンが外れてパーツを紛失するおそれがありますので、必ずバスケットを装着した状態でお使いください。
※バスケットを取り外したまま使用すると、シャフトが岩や木道の隙間に挟まり、シャフト破損の原因にもなります。



AS固定ピン

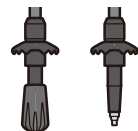
アンチショックシステム (AS) とは

ポールを突いた時の衝撃を吸収するシステムです。下段シャフトに配置することで、手首から遠く、地面から近い位置で衝撃を直接吸収。最大時の衝撃を約40%軽減し、関節、筋肉、靭帯への影響を緩和します。従来のアンチショックシステムのバネのような沈み込み感がない、自然な使用感も特長です。



【2】スリップレスラバーを装着して使用する

移動時のポール携行の際には安全面に配慮し、必ず装着をお願いします。ただし、雨天時の滑りやすい登山道やザレ場等では安全性を優先し、取り外して使用することも状況に応じてご判断ください。



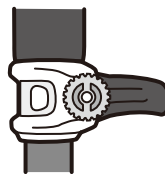
装着時 外した時

スピードロックシステムをご使用の方へ

【1】ダイヤルは細かく動かす

スピードロックは緩め具合の微調整ができるのが特長です。ダイヤルを細かくい幅で動かして調節をしてください。

※ロック開放状態でいきます。
注1) ロックを緩めすぎるとダイヤルが外れる原因になります。



【2】無理にロックを閉じようとしない

ダイヤル調節でキツく締めるとレバーが閉じない場合があります。

【3】無理に力をかけて閉じようとしない

無理に閉じようとするとレバーが破損することがあります。

【4】身体が安定する場所で調節する

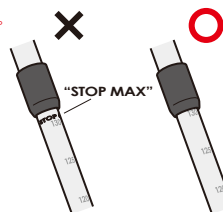
※長さの調整は山行前の平坦な場所で行ってください。
※岩稜帯などで調節を行うと危険を伴うとともに、パーツ紛失のおそれがありますのでご注意ください。

スーパーロックシステムをご使用の方へ

注1) シャフトの連結部分の緩みがないことを必ず確認してご使用ください。万が一、緩みがあった場合怪我などの原因になりますのでご注意ください。
注2) 使用中でもシャフトが緩むことがありますので、時々確認してご使用ください。

【1】ポールを伸ばすとき、「STOP MAX」の文字が完全に隠れる状態にする

長く伸ばしすぎると強度を損なうおそれがあります。



【2】力任せにロックを強く締めすぎない

内部パーツが破損するおそれがあります。

【3】ロックを緩めすぎない

解放の際スーパーロックを緩めすぎると、ポール内部での引っかかりがなくなり、カラ回りしてロックができなくなります。

【4】体重を預けすぎない

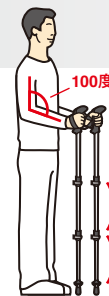
トレッキングポールは歩行時の補助や推進力として使用するもので、体重を預けすぎではいけません。

長さ調整の目安

中段／下段それぞれの長さを同じくらいにする

ガタつきによる不安定感をなくして最適なスイングバランスにします。中段／下段シャフトともに、同じ目盛り位置に合わせると印字された全長サイズになります。長さを均等にすることでポールを突いた際の負荷を、バランスよく分散します。

※目盛りの印字がないシャフトもあります。

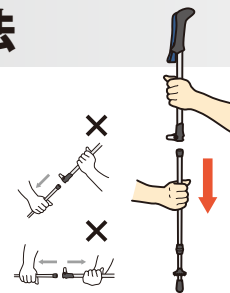


メンテナンス方法

【1】

帰宅後は、雨や晴れなどの天候使用条件に関わらず、なるべく時間を空けずにポールを一本ずつバラバラにしましょう。力を入れなくてもシャフト同士は簡単に外すことができます。

※軸線方向に勢いよく抜きます。根元部分に力が加わると破損の原因となります。
※マイクロシステムはバラせないため(3)のみを行います。



【2】

泥や小石の詰りがないかを確かめながら、スリップレスラバーロングやジョイントプラグなどのパーツ類も取り外します。ポールの構造を理解するためにも大切なことです。

※取り外したジョイントプラグを元に戻す際には上下逆にならないよう確認してから行います。
注) シャフトに固定されているネジは取り外せません。



【3】

乾いたタオルを使い、結合部に付いた水分や泥汚れを取り除きます。アンチショックやロック機能をベストな状態に保つために水分と汚れを残さないようにしましょう。

※クリーナーや潤滑油などは一切使わないでください。汚れがひどい場合は水拭きしてから十分乾燥させます。
※ネジ山部分もオレンジ色のパーツがスムーズに動くよう、水分や汚れを拭き取ります。



【4】

手入れが終わってもすぐにシャフトを組み立てず、シャフト内の湿気がなくなるまでしばらく乾燥させます。劣化の原因となる直射日光を避け、風通しのよい日陰がおすすです。その後、パーツの紛失を防ぐために組み立てて、緩めに仮締めして保管します。



マイクロシステム

マイクロバリオンシリーズの場合
※スピードロックを搭載しないモデルは
②③のみの動作となります

FOLDABLE

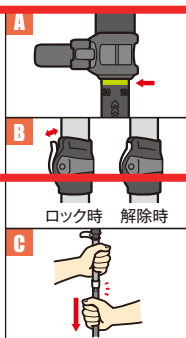


[1] **スピードロックを解放し
シャフトを伸ばせる状態にする**
上段シャフトだけを持ち、スピードロックを解放した状態にします。

[2] **上段シャフトの末端から下に引き伸ばす**
シャフトを伸ばし1本のポールになるようにそれぞれを連結させます。

※スピードロックを解放しないままではシャフトが伸ばしにくい場合があります。

[3] **タイプ別にシャフトを伸ばす**



A コアロッキングデバイス・タイプ

最大に伸ばした状態で、緑色サイン(鍵マーク)が見え「カチッ」と音がするまで、下方へ引っ張ります。



B エクスターナルロッキングデバイス・タイプ

「カチッ」と音がして、ELDボタンが立ち上がるまでシャフトを伸ばします。



C プッシュボタン・タイプ

固定用の突起が出現し、「カチッ」と音がするまでシャフトを伸ばします。



[4] **スピードロックでサイズ調整をする**
1本のポールに固定された状態であることを確認してから、適切な長さに調整します。

※スピードロックシステムを搭載しないモデルもあります。

[5] **レバーを下ろしロックする**
「バチン」とスピードロックパーツが完全に接触するまでレバーを下ろします。



マイクロシステム

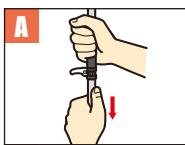
マイクロバリオンシリーズの場合
※スピードロックを搭載しないモデルは
②③のみの動作となります

FOLDABLE



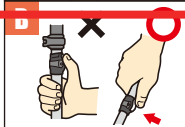
[1] **タイプ別にロッキングデバイスを解除する**

⚠ 解除時は指のはさみ込みに注意してください



A コアロッキングデバイス・タイプ

最大に伸ばした状態で「カチッ」と音がするまで、もう一度下方向へ引っ張ります。

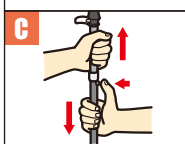


B エクスターナルロッキングデバイス・タイプ

ELDボタンを押してロックを解除します(「カチッ」と音がします)。



※システムの下部を持ちボタンを押すと指をはさむ可能性がありますので(左図)、必ず上部から持ちボタンを押してください(右図)。



C プッシュボタン・タイプ

ラチェットの突起ボタンを押してロックを解除します。

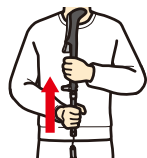


※解除時はボタン位置から少し距離を空け、指のはさみ込みにご注意ください。

[2] **上段シャフトを縮めて
3本のシャフト連結を解除**

スピードロックが解放された状態だと、作業はよりスムーズです。

※スピードロックシステムを搭載しないモデルもあります。



[3] **レバーを下ろしロックする**

最短状態にして、スピードロックパーツが完全に接触するまでレバーを下ろします。

※しばらく使用しない場合はダイヤルを緩めてロック強度を弱めてください。

